

こども特派員が行く!!

このコーナーは、小・中学校の子どもたちが自分たちで編集・発行する「特派員」となり、有田市の良さを伝えてくれます。

今回のこども特派員は、夏休みにオーストラリアケアンズへ語学研修に行った（上段左上から）田中翔太さん、藤田明寿香さん、石川青空さん、橋爪喜代乃さん、萬谷里奈さん、上野山知華さん（下段左下から）宮崎眞さん、田中友梨さん、大松南稀さん、石井里沙さんです。

※紙面の文章及び掲載の写真はこども特派員によるものです。



生徒が動く
—ケアンズ高校で—

日本では2年A組など、基本固定された教室で授業が行われ生徒は動かない。しかし、

世界的な観光地
—ケアンズ—

ケアンズまで飛行機で日本から約7時間半かかる。オーストラリアの北にある世界的な観光地。冬でも暖かく、固有の動植物がたくさんある。金鉱が発見され、港町として栄えた。たくさんの人種の人たちが移住し、生活している。ケアンズの人々にとってはそれが当たり前で、誰でもすぐに溶け込めるような所だった。



ケアンズの港

言葉は道具
—ホスト・ファミリーと—

日本とは違う文化の中で驚くこともあったが、「言葉は道具であり、大切なのは伝えようとするその心」という言

人の優しさを実感した9日間

私たち10名は8月16日から24日まで、中学生海外派遣研修に参加しました。ケアンズでの生活に対応できるか不安な気持ちもありましたが、実際行ってみると、現地の人たちはすごく優しく接してくれました。困ったこともありませんでしたが、とても良い経験になった9日間でした。

母から・・・

読ませていただいたメッセージの中に1つ、涙が出そうになるものがあった。ぜひここで紹介させていただきたい。



休憩中に友達と

海外派遣研修を終えて

ケアンズの良さや日本との違いを実感すると同時に、自分から積極的にコミュニケーションをとることの大切さなど、いろいろなことを学ぶことができました。同時に、英語を上手く使えれば、もっといろいろなことを深く交流できるのにと感じることもありました。

薬を常に頭に入れ、コミュニケーションをとることを心がけた。日本のお話や家族の話などをする中で、少しずつ英語がわかるようになりうれしかった。また、休日には植物園や動物園などいろいろな所に連れて行ってもらい、とても良い経験をする事ができた。

龍大生スナッフ

笑顔あり、感動ありの紀文まつりは打ち上げ花火で締めくくられた。この素敵なまつりはこれからも続いていくんだろうなあ...

母から

8年前に天国に行った息子へ「母は忙しく日々を送っていても忘れてたことないヨ。会いたい。」



ホストファミリーと

龍谷大学生 持ち込み企画

有田市 魅力発見プロジェクト No.5

龍谷大学生による持ち込み企画『有田市魅力発見プロジェクト』の第5弾です。今回は有田市の夏の一大イベントである紀文まつりにスタッフとして参加しました。

紀文まつりで見た有田



私たちが見た 紀文まつり

8月6日、有田市役所の前は歩行者天国になり賑わっていた。紀文まつりは有田市の人々にとって夏の最大イベントであり、まちのみんなが集う日になっている。偶然の再会を喜ぶ声があちらこちらから聞こえ、まるで同窓会のような風景であり、たくさんの方の笑顔が見られた。紀文まつりの始まりは1979年であり、当時から人々に親しまれていた。長い歴史を持つこのまつりの一大イベントは、何とんでも打ち上げ花火だろ。これを見るために市外から足を運ぶ人も少なくない。有田川の両岸からみられる花火は大迫力であり感動した。

市制60周年企画のメッセージ

今年の5月に市制60周年を迎えたことに伴って実施された「紀文まつりで想いを届ける60のメッセージ展」では皆さんから寄せられたメッセージが市役所玄関ロビーに掲示された。メッセージは恋人や友人、遠くで暮らす家族へ送るもの。届ける相手も内容も皆さんそれぞれで、笑顔になれるもの、涙が出そうになるもの...皆さんの素直な気持ちほど純粋で、届いてほしいと心から願った。

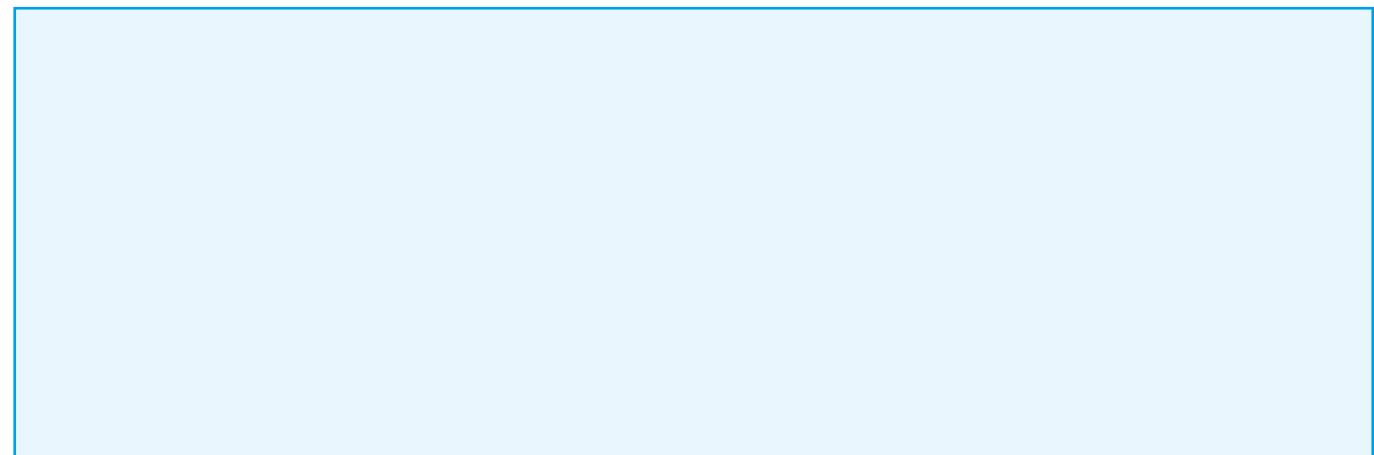


メッセージ届けます



笑顔あり、感動ありの紀文まつりは打ち上げ花火で締めくくられた。この素敵なまつりはこれからも続いていくんだろうなあ...

広告



広告

